

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 国本中央 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	59人	算数	59人	理科	59人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	67人	算数	67人	理科	67人
------	----	-----	----	-----	----	-----

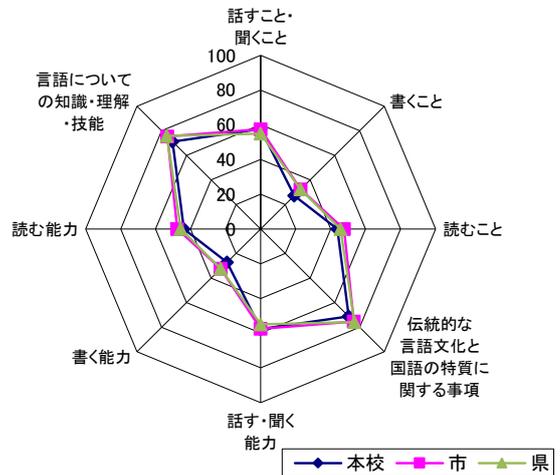
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	57.6	57.5	54.9
	書くこと	27.1	32.3	32.3
	読むこと	43.8	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.2	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	57.6	57.5	54.9
	書く能力	27.1	32.3	32.3
	読む能力	43.8	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	71.2	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

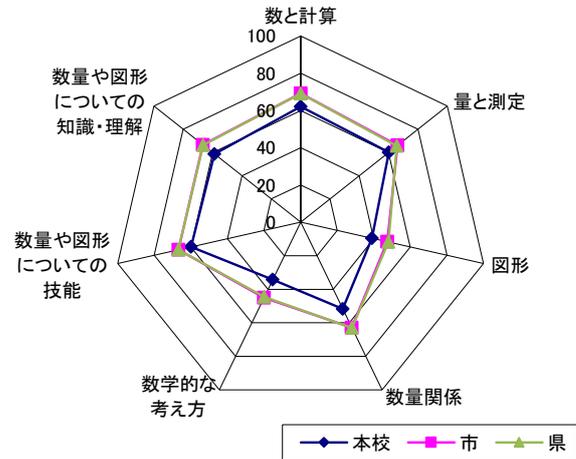
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は57.6%で、県の平均より2.7ポイント上回っている。 ○「話の中心に気を付けて聞き、自分の意見を述べる」は、県の平均より5.2ポイント上回った。「理由を挙げながら筋道を立てて話す」は、2.7ポイント上回った。「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」は、2.6ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの仕方を重点的に指導してきたため、自分の意見をまとめ、クラスの全員が納得できるように、話し合いを進めることができるようになってきた。今後は考えを伝えるグループ学習やペア学習を効果的に位置づけ、考えをわかりやすく伝える指導を充実させる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は27.1%で、県の平均より5.2ポイント下回っている。 ○「メモや友達の意見を基に、報告レポートのまとめを書く」は、県の平均より2.2ポイント上回っている。 ●「文章構成を意識し、内容を工夫して報告レポートを書く」は、県の平均より10.3ポイント下回っている。「メモを基に、報告レポートに記述する内容を考えて書く」は、7.6ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容を確認したり、書き方の順序を押さえたりしてきたことで、まとめて書く力が付いてきた。今後も日記や行事後の作文を書く機会を位置づける。 リーフレットやパンフレットの作成時には、目的をはっきりさせ、効果的なまとめ方や表現の仕方ができるよう指導を工夫する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は43.8%で、県の平均より1.9ポイント下回っている。 ○「登場人物同士の関係や物語上での役割を捉える。」は、県の平均より3.9ポイント上回っている。 ●「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」は、県の平均より10.5ポイント下回り、登場人物の気持ちを理解することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に読書や音読を推奨し、本や文章に親しめる環境を整える。 登場人物の行動を中心に想像を広げて読むことを指導し、叙述を基にした登場人物の様子を読み取る力を高める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は71.2%で、県の平均より4.6ポイント下回っている。 ●「漢字の読み・書き」の理解は、県の平均をやや下回っている。 ●「国語辞典の使い方」では、県の平均より11.9ポイント下回り、「ローマ字による書き方」では、10.1ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読みを音のみで覚えないう、漢字の成り立ち等にも触れながら丁寧に指導する。 漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞典や辞書を使って調べる習慣を身に付けさせる。 ローマ字や漢字の復習を計画的に行い、基礎基本の定着を図る。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.1	69.2	69.1
	量と測定	60.2	66.1	65.6
	図形	39.0	47.4	48.0
	数量関係	51.7	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	34.2	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	59.9	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	58.7	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

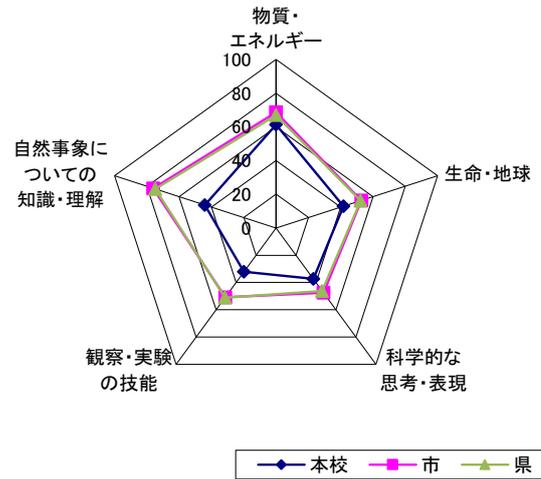
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○繰り上がりのある足し算に関する設問での正答率は、県平均を0.5ポイント上回っている。</p> <p>●繰り下がりのある引き算に関する設問、小数を含む計算に関する設問、小数と分数の大きさを比較する設問での正答率が、それぞれ10ポイント以上県平均を下回っている。</p> <p>●記述式の設問での正答率が低く、余りのある除法の計算方法を説明する設問で、県平均を3.4ポイント下回っている。</p>	<p>・既習事項の確実な習得のため、朝の学習や家庭学習の時間等を活用し、下学年の学習内容も含め日常的に反復練習を行う。</p> <p>・自らの考えを説明できる表現力を養うため、必要な知識や技能の習得を徹底するとともに、考えを書く活動や説明する活動を取り入れながら指導をする。</p>
量と測定	<p>○はかりの目盛りを読む設問や重さを推測する設問において、県平均とほぼ同等の正答率だった。</p> <p>●時間の単位を換算する設問と間に合う発車時刻の電車を選ぶ設問の正答率は、それぞれ10ポイント程度県平均を下回っている。</p>	<p>・実際に見たり体験したりした内容については、正答率が高かった。このことから、単位の学習では、身の回りの物を実際に計測する活動を取り入れるなど、実感の伴った理解ができるよう指導する。</p>
図形	<p>●正三角形や円の作図をする設問での正答率が、それぞれ10ポイント程度県平均を下回っている。</p> <p>●円を利用して描いた三角形の名前とその理由を考える設問での正答率が低く、正答率は1.7%だった。</p>	<p>・朝の学習や家庭学習を活用し、作図などの練習問題に取り組みさせる。</p> <p>・自らの考えを説明できる表現力を養うため、必要な知識や技能の習得を徹底するとともに、考えを書く活動や説明する活動を授業に効果的に位置づける。</p>
数量関係	<p>○棒グラフの目盛りの読み取りに関する設問では、正答率が県平均とほぼ同等であった。</p> <p>●正答率を県平均と比べると、数量関係を表した図を適切に選ぶ設問で23.6ポイント、除法の式を立式する設問で18.9ポイント、口を用いた計算に関する設問で8.7ポイント下回っている。</p> <p>●活用問題の正答率が、すべての設問において県平均を下回っている。</p>	<p>・問題場面を図や数直線に表す活動を設け、それらを場面理解や立式に役立てられるよう、図や数直線と式を関連付けて考えるよう指導する。</p> <p>・巻末の発展問題やプリントによる応用問題にも取り組みませ、様々な問題に触れさせるよう工夫する。</p>

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.3	68.6	66.9
	生命・地球	41.7	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	37.3	47.4	46.2
	観察・実験の技能	32.2	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	44.1	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県から5.6ポイント、市から7.3ポイント下回った。 ○ゴムの伸びを推測する設問では、市を上回っている。 ●物質は形が変わっても重さが変わらないことや体積が同じでも物質の種類で重さが違うことなどの設問の正答率が市の平均からそれぞれ5.1ポイント、8ポイント下回った。 ●はかりの正しい使い方については、市の平均から5.5ポイント下回った。 ●光を重ねると明るさはどう変化するかという設問では、市の平均から15.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの重さの学習では、ビニル袋に入ったせんべいの割る前と割った後の重さを比べたり、一つの粘土を様々な形を変えて重さを量ったりする実験を確実に行う。 ・はかりの使い方については、繰り返し指導し、確実に定着させる。 ・光を集める実験では、結果の予想や結果の考察等を丁寧に指導し、科学的な思考力を高めるようにする。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県・市から20ポイント下回った。 ●植物の生長・昆虫の育ち方では、県の平均正答率より13ポイント下回った。 ●方位磁石や温度計の適切な操作方法では、県・市の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫の育ち方には一定の順序があることや、植物の生長する順序など、実際の飼育や栽培を通して、実感を伴って理解させるようにする。 ・方位磁針や温度計の使い方については、正しい使い方を繰り返し指導し、確実に定着させるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○肯定率が県平均と比べて高かったのは、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「家で、学校の授業の復習をしている」「将来の夢や目標をもっている」「自分には、よいところがあると思う」「先生は学習のことについてほめてくれる」「家の人は、ほめてもらいことをほめてくれる」「1日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が1時間未満である」であった。

携帯電話やスマートフォンの使い方は、ほぼ良好な結果であった。しかし、タブレットや携帯用ゲーム機を使ってアクセスしている児童もいるので、発達の段階に応じて指導していく。

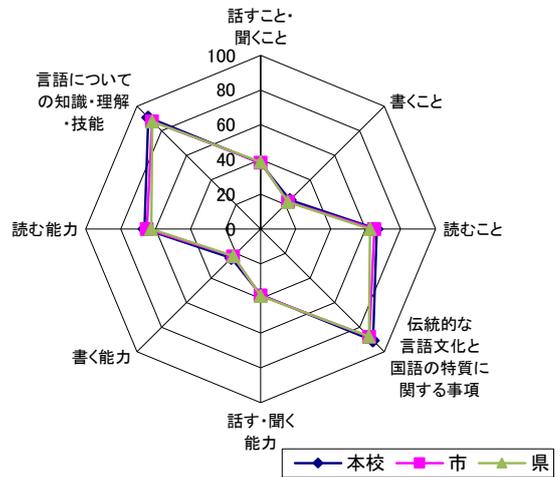
●肯定率が県平均と比べて低かったのは、「学習に対して自分から取り組んでいる」「授業を集中して受けている」「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」「授業の最後に振り返る活動をよく行っている」「グループなどの話合いに自分から進んで参加している」「自分の考えを文章にまとめて書いている」「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」「1日当たりのテレビゲームをする時間が1時間未満である」であった。

勉強の大切さは理解しているものの、家庭での学習時間が1時間未満の児童が多く見られた。学年だよりに家庭学習のよい取組事例を紹介するなどして、家庭と連携・協力しながら家庭学習の充実を図っていく。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	37.9	38.3	38.5
	書くこと	23.7	22.3	21.9
	読むこと	66.4	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	90.9	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	37.9	38.3	38.5
	書く能力	23.7	22.3	21.9
	読む能力	66.4	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	90.9	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

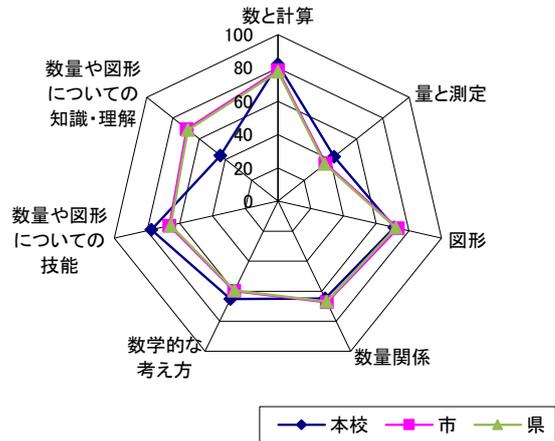
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は38.3%で、県の平均とほぼ同等であった。 ○「考えの共通点や相違点を整理しながら聞く」は4.2ポイント上回り、「考えの根拠を示しながら筋道を立てて話す」は県の平均とほぼ同等であった。 ●「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」は、県平均を5.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの学校課題で学級活動における話し合いにおいて重点的に指導してきた。そのため、多種多様な意見をまとめ、クラスの全員が納得できるように、話し合いが進められるようになった。今後は自分の意見を分かりやすく相手に伝えられるよう指導を工夫する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は23.7%で、県の平均を1.8ポイント上回った。 ○「書くこととするものの中心を明確にして書く」は県の平均を9.1ポイント上回った。 ●「メモや友達の見解を基に、リーフレットのまとめを書く」は0.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書くとき、理由を付けながら書くよう指導してきた。これからも、この指導を継続していく。 ・資料を基にして文章を書いたり、ポスターをかいたりする教材を有効に活用し、趣旨に沿った内容の文章を書く力を高める。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は66.4%で、県の平均を3.9ポイント上回った。 ○「目的に応じて中心となる語を捉えて読む」は県の平均を2.2ポイント、「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」は5.3ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の序論、本論、結論に着目し、話題の変化を意識して読む指導を充実させる。 ・文章や物語を読み取る際には、登場人物の性格や気持ちの変化、場面の情景などを登場人物の行動や会話に即して板書にまとめ、論理的に思考できるよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は90.9%で、県の平均を3.4ポイント上回った。 ○漢字の読み書きの正答率は県の平均と同等であった。 ●「漢字辞典の使い方」は県の平均より0.8ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習では、引き続き漢字辞典を活用し、漢字の意味や音と訓の読み方、偏やつくりの構成などを丁寧に指導する。 ・慣用句の学習では、国語辞典を活用して意味を調べさせたり、ノートに例文を書かせたりして、慣用句の理解が深まるよう指導する。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	82.2	78.6	77.7
	量と測定	42.8	36.3	35.7
	図形	71.2	73.3	72.1
	数量関係	64.8	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	65.2	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	77.3	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	43.9	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

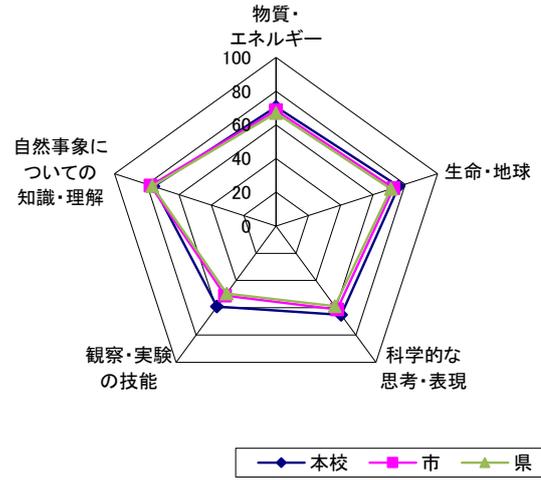
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は82.2%で、県の平均を4.5ポイント上回った。 ○かけ算は県の平均を10ポイント以上上回った。「3位数×2位数＝5位数」は県の平均より10.3ポイント上回った。 ●計算のきまり・変わり方調べは県の平均を5.7ポイント下回った。「小数と整数の中から一番大きい数を選ぶ」では3.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> かけ算では、正しい手順で計算できるよう、計算練習など基礎基本の定着に向けた指導を継続する。 ・小数の計算においては、小数点の移動など位取りが正しく理解できるよう丁寧に指導する。 ・計算の決まりや変わり方調べの学習では、言語活動を効果的に取り入れながら、数学的な考え方を高める指導を心掛ける。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は42.8%で、県の平均を7.1ポイント上回った。 ○「1mの正方形は1cmの正方形何枚分かを求める」「式に合った複合図形の面積を求める方法を説明する」では、県の平均より10ポイント上回った。 ●「教室における黒板のおよその面積を推測し選ぶ」は、県の平均を1.0ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1m²＝10000cm²は、1m＝100cmの関係を基に考えるようにする。(1cmが100個分)×(1cmが100個分)という考えから、単位の換算の仕方を理解させる。 ・1m²の正方形の面積が10000cm²であることを、図に表して考えるよう指導する。 ・身近にあるものの面積を調べるなどの活動を行い、実感を伴った理解につながるよう指導する。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は71.2%で、県の平均を0.9ポイント下回った。 ○「立方体の展開図から、ある面と平行な面を選ぶ」では、県の平均を2.4ポイント上回った。 ●「与えられた2辺の続きをかいて、平行四辺形を完成する」では、県の平均を4.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体の展開図の理解に良好な状況が見られる。 ・作図では、図形の性質と関連付けながら作図するよう指導し、図形の性質についての理解を深める。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は64.8%で、県の平均を2.1ポイント下回った。 ○「二次元表の欄にあてはまる数を求める」では、県の平均を6.4ポイント上回った。 ●「買い物の場面で、1つの式に表した考え方を説明する」では、県平均を11.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複合体の面積では、実物を提示し、構成する形の特徴からよりよい求め方に気付くよう指導する。 ・具体的な場面に即しながら立式させることで、式の表す意味が理解できるよう指導する。 ・言語活動を効果的に位置づけ、数学的な見方・考え方の力を育成する。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.7	68.6	67.0
	生命・地球	75.9	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	65.2	61.2	58.8
	観察・実験の技能	59.1	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	75.8	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は70.7%で、県の平均を3.7ポイント上回った。 ○「閉じ込めた空気を圧す際の体積と手応えの変化がわかる」では、県の平均より7.4ポイント、「結果から金属の棒の温まり方について説明する」では、11.1ポイント上回った。 ●「湯気と水中から出てくる泡の正体がわかる」では、県の平均を7.3ポイント、「光電池の働きと光の強さの関係から結果を推測する」では、県の平均を4.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事物や現象の変化とその要因を関連付けながら、科学的な言葉や概念を用いて自分の考えをまとめ、互いに説明し合う言語活動を効果的に位置づける。 ・ものの温まり方では、対流の仕組みを映像を使い、視覚的に理解させる。 ・水のすがたでは、水を沸騰させる実験により、湯気と水蒸気の違いを理解させる。 ・光電池の当たる光の強さや光の当て方を変えて、電流の強さが変わることを理解させる。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ○人の腕のつくりの図から筋肉の名称や関節の働きを問う設問では、それぞれ高い正答率を示した。 ○太陽の動きと影の動き方を関連付けて考える設問では、正答率が県や市の平均を8ポイント以上上回った。天気の様子から一日の気温変化の様子を推測する設問では、正答率95.5%と、学習内容が確実に定着していることが分かる。 ●グラフを基に地面の様子と気温の変化について考察する設問では、県の平均をやや下回った。 ●月の動き方についての設問では、県の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の体のつくりと運動では、模型を使用し、背中には多くの関節があることを丁寧に指導する。 ・太陽の動きと影の学習では、観察を通して得られた結果を基に太陽の動きと影の動き方について考察させるようにする。 ・児童自身の目で観察する場を確実に確保し、児童の理解を深める。 ・グラフや資料から考察するなど、資料活用能力を育てる。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での家族との会話に関する項目では、「学校での出来事」「将来のこと」「学習について」の肯定的回答の割合が、県や市の平均を大きく上回った。家族とのコミュニケーションがしっかりと図られていることが分かる。

○学びに向かう力を問う設問では、「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答の割合が、県や市の平均を7ポイント上回った。「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の肯定的回答の割合は100%であった。

○「自分の能力を十分発揮したい」「毎日の生活に充実感をもつ」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」の肯定的回答の割合が、県や市の平均を上回った。さらに、地域や社会の問題に関心をもっている児童も多かった。

○学級力を問う設問では、多くの児童が授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると感じており、学級内は発言しやすい雰囲気、グループの話合い等も活発に行われており、自分の考えが深まったり広がったりすることを実感している児童が多いことが分かった。

○家庭学習についての肯定的回答が、県や市の平均を10ポイント以上上回った。家庭においても自主的に学習に取り組んでいる児童が多く見られた。

●「自分の考えを文章にまとめて書くこと」に難しさを感じている児童の割合が、県の平均を10ポイント以上上回った。日常の授業展開の中で、話し合い活動の前には個別で思考する時間を必ず設けノート等に自分の考えを記述するなど、「書く」とへの抵抗感を和らげる指導を工夫する。

●当日の調査問題については、国語において問題を解く時間が十分でなかったと感じている児童の割合は、県や市の平均を5ポイント上回った。また、算数については、すべての児童が授業の内容はよく分かると回答しながら、解く時間が十分であったかについてのとらえ方に大きな個人差が見られた。素早く、正確に問題が解けるよう指導を工夫する。

宇都宮市立国本中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいの提示と振り返り活動の工夫 ○言語活動の充実 ○家庭学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを、児童がイメージできる言葉で明示し、ノートに書かせる。 ・授業の終わりに振り返りの場を設定し、本時の学びを確認させる。 ・授業に書く活動を効果的に位置づける。 ・授業に話し合いの場を位置づけ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ・家庭学習の日を設定し、家庭と連携・協力して家庭学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを明確に提示することで、児童の授業への興味・関心が高まり、学習への意欲が高まった。 ・振り返りを確実に行うことで、児童は本時の学びを確認し、自分の頑張りやよさを確認することができた。 ・書く活動の指導により、自分の考えを的確にまとめることができる児童が増えてきた。 ・話し合い活動の指導により、自分の考えを分かりやすく表現したり、考えを深めたりする児童が増えてきた。 ・家庭での学習習慣が身に付いてきた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得 ○基礎的・基本的な知識や技能を活用して問題を解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能が習得できるよう、学習活動を工夫する。 ・基礎的・基本的な知識・技能を活用して問題を解決するような活用問題に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習や家庭学習を活用して、漢字や計算の確実な習熟を図る。 ・活用問題を効果的に位置づけ、思考力・判断力・表現力等が高まるよう指導する。